

# レオナルド・ダ・ビンチの思考

先日、ちょっと時間があつたので、小矢部市のクロスランドおやべにある「ダ・ビンチテクノミュージアム」へ行ってきた。

小矢部市がフィレンツェ市と友好交流を行っているので、ダ・ビンチが登場するようである。

彼の多様な才能、業績は周知の通りである。教師としては、その才能がなぜ生まれたか興味がある。短時間の見学であったことと十分な調査をしていない中で、かつてから考えていたことを何点かまとめてみる。

## ①よい雰囲気があつたこと

以前、[このホームページにも書いた](#)が、当時のフィレンツェがルネッサンスの中心で、芸術・科学・哲学研究(?)が盛んであつたこと。

100年戦争が休戦状態になり、安定した時代に入ったのではないだろうか。

## ②学問の枠にとらわれない、幅広い興味関心がある

多分野にわたる業績がある。彼は、純粋に興味関心あることに取り組み、観察・記録を重ねていった。いまでいう「専門」という概念を超越して取り組んでいたのではなかろうか。

## ③芸術からのスタート

学習のスタートは画家への師事であつたようだ。偏見かもしれないが、子育てにおいて、はじめから英語、算数よりも、「遊び、お絵かき、お話」から入り、そこからその子の才能が見えてくることがあるようだ。絵画も観察の記録としても有効であつた。

## ④為政者の保護

世の中が安定し、芸術・科学・哲学に関心が出てきて、お金や施策がその方向へ流れたのだろう。

加賀藩のいい時代の芸能保護と類似しているか。

言い換えれば、いい時代に生まれてのだろう。

次期学習指導要領の考え方にある、資質としての「～力」。ダ・ビンチは以下のような。

(揭示物の概要)

ダ・ビンチの思考

